

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0206

(注)本稿は 2011 年 11 月 9 日から 16 日までの 4 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2011.11.16

前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)22カ国の旅行・観光産業競争力指数(2011年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その16)

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 「Travel and Tourism Competitiveness Index」について	1
2. 総合順位が MENA 諸国で最も高い国は UAE	2
3. 分野別のランク	3
4. 前回(2009年)及び前々回(2008年)との比較	5
5. MENA 主要3カ国とスイス、日本、米国との比較(レーダーチャート)	6

東はアフガニスタンから西はモーリタニアまでの MENA(中東・北アフリカ)22カ国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。

第16回のランキングは、「世界経済フォーラム(World Economic Forum, 略称 WEF)」が公表した「The Travel and Tourism Competitiveness Index(TTCI) 2011」について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

* TTCI のホームページ:

<http://www.weforum.org/issues/travel-and-tourism-competitiveness>

1. 「Travel and Tourism Competitiveness Index」について

「Travel and Tourism Competitiveness Index」(旅行・観光産業競争力指数、以下 TTCI)は、スイスで開催される「ダボス会議」の主催者として世界に名を知られている「世界経済フォーラム(World Economic Forum, 略称 WEF)」が作成したものである。

2011年度レポートでランク付けの対象となった国・地域のは数は139であるが、そのうち MENA は前回(2009年度)より2カ国増えて18カ国であり、MENA22カ国の8割強をカバーしている。ちなみ

に今回ランク付けの対象とならなかったのは、アフガニスタン、イラク、スーダン、イエメンの4カ国であった。

TTCI は(A)T&T regulatory framework (旅行・観光に対する規制の枠組み)、(B)T&T business environment and infrastructure (旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度)、(C)T&T human, cultural, and natural resources (旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度)の三つの分野に分かれ下記の14項目のSub Indexについて評価対象としている。項目ごとに7点満点とする各国毎の点数をつけ、それらを総合した指数が各国のランクとなっている。

A. T&T regulatory framework (旅行・観光に対する規制の枠組み)

- (1) Policy rules and regulations (規則)
- (2) Environmental sustainability (環境持続性)
- (3) Safety & security (安全)
- (4) Health & hygiene (衛生)
- (5) Prioritization of travel & tourism (観光産業に対する優先度)

B. T&T business environment and infrastructure (旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度)

- (6) Air transport infrastructure (空路インフラ)
- (7) Ground transport infrastructure (陸路インフラ)
- (8) Tourism infrastructure (観光インフラ)
- (9) ICT infrastructure (情報インフラ)
- (10) Price competitiveness in T&T industry (価格競争力)

C. T&T human, cultural, and natural resources (旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度)

- (11) Human capital (人的資源)
- (12) Affinity for travel & tourism (吸引力)
- (13) National resources (自然資源)
- (14) Cultural resources (文化資源)

2. 総合順位が MENA 諸国で最も高い国は UAE

(詳細は<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-16aOverallIndex2011.pdf> 参照)

MENA 諸国の中で TTCI が最も高いのは UAE であり、世界ランクでは30位である。以下世界ランク50位以内には入っているのはバハレーン(世界40位)、カタール(同42位)、イスラエル(同46位)、チュニジア(同47位)及びトルコ(同50位)の6カ国である。この中ではバハレーン及びチュニジアの両国は今年前半「アラブの春」と呼ばれる民主化運動が勃発し観光産業に多大な影響を与えている。MENA7位以下は、オマーン(世界61位)、サウジアラビア(同62位)、ヨルダン(同64位)と続いており、これら9カ国が世界139カ国の中では上位グループに入る。

サウジアラビア(世界62位)は名の通った歴史遺産や自然遺産は少ないが、イスラム教の聖地メッカ(マッカ)とマディナがあり、世界中から毎年数百万人のイスラム教徒が巡礼に訪れる。「巡礼」を観光とみなすか否かには異論もあるが、日本でも「お伊勢参り」が信仰を兼ねた観光旅行として江戸時代から盛んに行なわれてきたことを考えると、立派な観光資源と考えることができる。サウジアラビアには巡礼省と呼ばれる専門の省庁があり、また巡礼で聖地を訪れた旅行者が同国内の他の地域に足を伸ばすことを狙って「サウジアラビア観光・文化遺産委員会(SCTA)」を設立し、観光振興に力を入れている。

10位以下はレバノン(世界70位)、エジプト(同75位)、モロッコ(同78位)、クウェイト(同95位)、シリア(同105位)、アルジェリア(同113位)、イラン(同114位)、リビア(同124位)、モーリタニア(同136位)と続いている。エジプト、イラン、シリア、レバノンの各国は歴史的な文化遺産が多く、またエジプト及びモロッコは観光地・保養地として外国人に人気が高いにも関わらず観光産業の競争力が低い。これは政治的な要因或いは観光客の受け入れ態勢等に問題があるためと考えられる。因みに世界ランク1位はスイスであり、日本は22位である。

3. 分野別のランク

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-16bBySubIndex2011.pdf>参照)

冒頭に述べたように総合ランクは三つの分野、合計14項目の評価ポイントにより決められている。評価対象になっている MENA 18カ国について、これら14項目毎の順位を見ると以下の通りである。

D. T&T regulatory framework (旅行・観光に対する規制の枠組み)

(1) Policy rules and regulations (規則)

この項目ではチュニジアがトップであり同国の世界順位は23位である。これに続いてトルコ(世界34位)、カタール(同37位)、UAE(同38位)が世界30位台に、またオマーン(41位)、サウジアラビア(43位)、モロッコ(48位)及びエジプト(49位)が世界40位台につけている。一方リビア、シリアは120位以下である。両国は独裁政権のもとで鎖国に等しい状態であったが、一連の「アラブの春」の騒乱でリビアは民主化し、シリアも激しく揺れている。このため当面は旅行・観光に対する規則緩和に踏み切る余裕はないと思われる。

(2) Environmental sustainability (環境持続性)

トップはチュニジア(世界18位)である。これに続くのがモロッコ(同36位)、ヨルダン(同54位)、カタール(同67位)、イスラエル(同74位)となっている。一方順位が低いのはクウェイト(139位)のほかリビア(134位)、サウジアラビア(131位)である。MENA 諸国は全般的にこの項目の順位が低く、MENA 18カ国の平均世界順位は96位であり、14項目の中では「自然遺産」(下記項目13)に次いで低い。

(3) Safety & security (安全)

オマーンがトップで同国の世界順位は17位である。二番目に高いのがカタール(世界28位)、クウ

エイト(同31位)、バハレーン(同32位)などの GCC 諸国が上位に連なっている。一方観光面で安全度が低いと評価されたのはエジプト(世界135位)で同国は全世界の調査対象国139カ国の中でも最低レベルである。

(4)Health & hygiene (衛生)

旅行・観光の衛生面で最も高い評価を受けたのは、イスラエル(世界16位)であり、MENA2位のカタール(同47位)と比べ格差が大きい。これら2カ国に続くのがレバノン(同48位)、エジプト(同56位)及びヨルダン(同57位)の地中海レバント諸国である。これに対しモーリタニア(同137位)、イラン(同121位)及びモロッコ(同104位)は世界順位が100位以下である。

(5)Prioritization of travel & tourism (観光産業に対する優先度)

MENA 諸国の中で観光産業を重視している国がチュニジア及びヨルダンであり、両国は世界でもベストテン(各々8位、10位)に入っている。これに続くのがエジプト(同22位)、モロッコ(同23位)である。これら4カ国に共通しているのは、石油など天然資源は乏しいが外国人を惹きつける観光資源が多いことであり、観光による外貨獲得を国策として振興していることである。

E. T&T business environment and infrastructure (旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度)

(6)Air transport infrastructure (空路インフラ)

観光客を誘致する航空路が最も整備されている国として高い評価を受けたのは UAE(世界4位)である。同国のドバイ空港は周辺国のみならず中央アジア、東アフリカなど広域圏のハブ空港となっており、MENA では今や別格的な存在である。二番目はカタール(世界20位)、三番目はバハレーン(28位)で上位3カ国は GCC が占めている。因みに日本は世界22位である。

(7)Ground transport infrastructure (陸路インフラ)

国内の陸路インフラが整備されているのはバハレーン(世界11位)、UAE(同31位)、カタール(同35位)、オマーン(同40位)等であり、オイル・マネーで道路が整備されている GCC 各国が上位に並んでいる。

(8) Tourism infrastructure (観光インフラ)

MENA で観光地のインフラが最も整備されていると評価されたのは UAE で、同国の世界順位は22位である。これに続き世界50位以内に入っているのはバハレーン(世界26位)、レバノン(同29位)、カタール(同34位)、イスラエル(同44位)である。一方インフラ整備が遅れているとされたのはイラン(同136位)、モーリタニア(同124位)、アルジェリア(同122位)であり、特にイランは調査対象国139カ国の中でも最低レベルである。

(9) ICT infrastructure (情報インフラ)

旅行・観光に関する情報インフラでは UAE が MENA トップで世界順位は18位である。UAE に次いで情報インフラが整備されているのはイスラエル(世界22位)、以下バハレーン(同45位)、カタール(同45位)、サウジアラビア(同51位)、オマーン(同58位)、トルコ(同59位)の順である。エジプト

は世界順位93位であり、イラン(同89位)とともに情報整備が遅れている。

(10) Price competitiveness in T&T industry (価格競争力)

価格競争力は MENA の世界平均順位が45位で、14項目の中では最も高い。国別ではエジプトが世界5位であり、サウジアラビア(同6位)、イラン(同7位)、チュニジア(同9位)で世界のベストテンに4カ国が入っている。エジプト、イラン、チュニジアは人件費が安いことがその主要因であり、サウジアラビアの場合は旅行・観光業の中心であるマッカ巡礼に対して政府が価格統制を行っているためと考えられる。

これに対しイスラエル及びトルコの世界順位はそれぞれ115位及び108位であり、総合評価で世界で最も競争力があるとされているスイスも世界127位である。また米国と日本は価格競争力順位がそれぞれ100位及び137位であり、先進国の旅行観光は高コスト体質であることがわかる。

C. T&T human, cultural, and natural resources (旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度)

(11) Human capital (人的資源)

人的資源では UAE(世界12位)、カタール(同18位)が優れており、これに続くのがチュニジア(同27位)、バハレーン(同29位)、イスラエル(同31位)、サウジアラビア(同34位)の各国である。

(12) Affinity for travel & tourism (吸引力)

観光客を惹きつける魅力のある国としてレバノンが世界1位とされている。MENA 諸国でこれに続くのはヨルダン(同10位)、チュニジア(同19位)、モロッコ(同22位)、シリア(同23位)である。これらの国々には紀元前の古代文明遺跡或いは中世のイスラム文化が現在も残っており、観光客や旅行者がそれらに惹かれていることを示している。

(13) National resources (自然資源)

中東北アフリカは平坦な砂漠の乾燥した国が多く、自然の景観は変化に乏しい。このためこの項目は14項目の中で平均世界順位が最も低く104位である。サウジアラビア(同48位)及びオマーン(同69位)の2カ国のみが世界平均を上回っている。

(14) Cultural resources (文化資源)

この項目で MENA トップはトルコ(世界21位)であり、これに続くのが UAE(同34位)、イラン(同52位)モロッコ(同54位)などである。この他世界60位台にいるのがカタール、バハレーン、エジプト、リビア、イスラエル及びチュニジアの各国である。

4. 前回(2009年)及び前々回(2008年)との比較

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-16aOverallIndex2011.pdf> 参照)

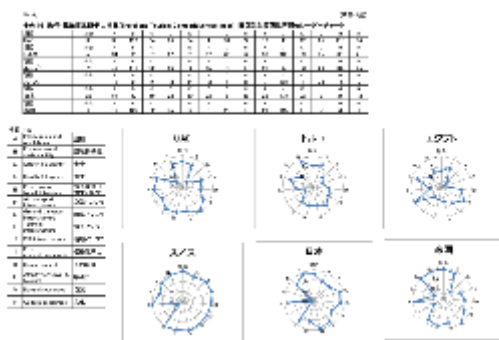
各国の競争力順位を過去2回(2009年及び2008年)と比較すると、UAEは40位('08年)→33位('09年)→30位('11年)と毎回順位を上げており、前々回 MENA 諸国の中では4位であったが、前回、今回と2回続けて MENA のトップである。今回 MENA2位のバハレーンも48位('08年)→41

位('09年)→40位('11年)と毎回順位を上げている。但し同国は今年国内で騒擾事件が発生し治安が不安定である。F-1 レースも中止されるなど観光が打撃を受けており、次回は順位が下がる懸念がある。このほか毎回順位を上げた国にはオマーン(76位→68位→61位)及びサウジアラビア(82位→71位→62位)がある。これら4カ国はいずれも GCC の加盟国である。

これに対してイスラエルは35位→36位→46位と毎回ランクを下げており、前々回は MENA のトップであったが今回は MENA4位に落ちている。同様に順位を下げた国はチュニジア(39位→44位→47位)、ヨルダン(53位→54位→64位)、モロッコ(67位→75位→78位)などである。

旅行・観光産業が盛んなトルコの場合は54位('08年)→56位('09年)→50位('11年)と50位台を上下しており、またエジプトは66位→64位→75位であり、今回の落ち込みが激しい。なおイラン及びレバノンは今回初めて順位付けされたため過去との比較はできない。

5. MENA 主要3カ国とスイス、日本、米国との比較(レーダーチャート)



図は UAE、トルコ、エジプト、エジプトと総合順位世界1位のスイス及び日本(総合22位)、米国(同6位)各国の項目別世界順位をレーダーチャートとして表示したものである。(拡大図は <http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/5-16c RadarChart2011.pdf> 参照)

レーダーチャートは最も外側が世界順位1位であり内側の中心は世界151位である。また最上段のAからNまでの記号は第二項に述べた調査項目の(1)から(14)を示している。各分野の世界順位を結ぶ青い輪が各国の状況である。レーダーチャートの青い輪が外側に広がっているほど世界での順位が高く、また輪の形が円に近いほど各分野の世界順位が平均していることを示している。

総合順位30位の UAE は空路インフラが世界4位と傑出している。その他の項目も殆どが20位～50位であり、全体にバランスが取れているが、環境持続性(122位)及び自然資産(116位)の2項目が劣っている。これは同国はアラビア半島砂漠の沿岸に位置しており自然の景観と呼べるものは無く、一方オイル・マネーによる急速な都市開発により環境の持続性が危ぶまれているためと考えられる。

トルコ(総合50位)は14項目の中では文化資産(21位)、規則(34位)、空路インフラ(37位)などの評価が高く文化遺産による観光客の誘致に力を入れていることがわかる。その他の項も価格競争力(108位)を除き全て100位以内であり、比較的バランスのとれた競争力を示している。

トルコに並ぶ中東の観光国のエジプトは総合順位が75位であるが、項目による変動が大きい。

例えば価格競争力は世界5位のトップクラスであり、観光産業に対する優先度(22位)、吸引力(29位)なども高く評価されている。しかし安全(135位)、環境持続性(113位)などに問題を抱えており、また情報インフラ、人的資源は共に低く(世界93位)、観光産業のソフト面での充実が課題である。

これら MENA 諸国を欧米先進国と比べると総合世界1位のスイスはあらゆる面で世界のトップレベルにあり、ただ価格競争力だけが低い(127位)。米国(総合6位)は空路、陸路、観光及び情報の各インフラは安定して高い評価を得ているが、環境持続性(105位)、吸引力(104位)、価格競争力(100位)などが世界順位100位以下である。

日本は総合22位である。日本の場合は陸路インフラ(6位)、文化資産(12位)などの世界順位が高い一方、価格競争力(137位)及び吸引力(131位)の二項目の順位が極めて低く、この面では米国と同様の傾向を示している。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp